

中四国地連NEWS

2009年4月16日(金)

中四国地連書記局

migi@okayama.coop

職場は変化をもとめている！ おかやま 職場の声をもとに理事会に二次要求を提出

生協労組おかやまは、4月15日(水)に約80名の仲間が集まり、理事会に二次要求書を提出しました。労働組合は3月13日に1次回答が出されて以降、春闘回答とおかやまコープの経営問題について、労組見解に基づく一斉職場集会を開催してきました。職場集会では「経営状況の深刻さは理解できるが、それをはね返すモチベーションが上がらない」など、賃金回答よりも、組織運営上の問題や当面する業務課題に対する不満や意見が数多く出されました。



労働組合は、職場論議を踏まえて、職場論議をもとに「職場の実態を受けて理事会自身がどう“変わる”のか」「職場風土改革を進めるための協議の場の設置」など4点にわたる二次要求を作りました。

労働組合は、団体交渉の二次要求書説明の中で「職場では、経営の厳しさは日々実感しているが、モチベーションが上がらない」といった声が出されている。理事会は、「働き方を変える」と言うがもの言えない、言っても聞いてもらえない、数字だけでつめられる、という状態でどう変われということの声が多い。理事会はまず、職場の声と実態を率直に受け止め、原因がどこにあるのかを真剣に考えないと組織的な活力は生まれないと強調しました。職場からは、「個配の手数料について意見を言ったら、数字をやって出世して、自分で変えろといわれた」「パート会議も行われず、センター長から仕事をどう変えてほしいという発信もない」などの意見が出されました。これに対して、理事会は、「どう変わってほしいかは、これまでいい続けてきた。改めてこのような意見だが去れることは残念。何のために仕事をしているのか一人ひとりが考え、自ら変わることが必要」と発言しました。

約2時間にわたる団交でしたが、理事会と労働者の認識にはまだかなりの隔りがあることが浮き彫りになりました。労働組合への二次回答は、4月29日に示される予定です。

(生協労組おかやま：西崎特派員電)

ひろしま 新人13人全員が労組の仲間！



2009年4月1日、生協ひろしまの入協式が行われ、新たに生協職員となったフレッシュな新人たちに「労働組合説明会」を行いました。労働組合の歴史や生協ひろしま労働組合の取り組みを紹介。「労組はみんなが悩んだり、困ったときにいつでも相談できる窓口であること」「労働組合に加入してみんなで生協ひろしまを盛り上げ、自分たちの労働条件を改善しよう」と呼びかけました。

書記長の熱のこもった訴えに、13人の仲間全員が生協ひろしま労働組合の仲間になりました。

(生協ひろしま労働組合：西野特派員電)

単組のニュースや取り組みがあれば、地連にお寄せください！